

施策 No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	生活環境課	主管課長名	佐谷 智
5-8	施策名	生活環境の保全	関係課	ヤマザクラ課、農林課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		
	生活環境(水質・大気・土壌)が保全されている。	・市民 ・市内の生活環境(水質・大気・土壌)	①桜川市人口	人	見込値	41,278	41,008	40,738	40,467	40,197	
実績値					41,278	40,483	39,692				
②市域面積			km ²	見込値	180.06	180.06	181.06	182.06	183.06		
				実績値	181.06	180.06	180.06				
				見込値							
				実績値							
施策の意図		成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		
		①省エネなどの地球環境への負荷を軽減する行動を行った市民の割合	%	目標値	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0		
					実績値	66.5	69.9	65.1			
				②不法投棄件数	件	目標値	50	50	50	50	50
						実績値	61	72	47		
				③桜川の水質(BOD)(市内の最下流「地藏橋」地点)	mg/L	目標値	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1
	実績値					0.9	1.4	1.0			
	目標値										
	実績値										
	成果指標設定の考え方	○水質・大気が保全される(環境問題への理解を深め環境保全への行動を実践すること)に対する成果指標は、市民アンケートにおいて、①「省エネなどの地球環境への負荷を軽減する行動を行った市民の割合」や②「不法投棄件数」、③「桜川の水質」で把握する。									
	成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①省エネなどの地球環境への負荷を軽減する行動を行った市民の割合は、市民アンケートより求める。③桜川の水質(BOD)(市内の最下流「地藏橋」地点)は、霞ヶ浦流入河川水質調査実績(委託により毎年2回調査を実施)より求める。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	・省エネなどの地球環境への負荷を軽減する行動を行った市民の割合は、平成30年度69.9%、令和元年度は65.1%であった。前年度と比べ4.8ポイント減少し、成果として低下している。 ・不法投棄事件数は、平成30年度72件、令和元年度は47件であった。前年度と比べ25件減少しており、成果が向上した。 ・桜川の水質(BOD)については、平成30年度は1.4mg/ℓ、令和元年度は1.0mg/ℓであり、数値は0.4mg/ℓ減少しており、成果が向上している。生息する生物種の水質階級では「Iきれいな水～II少し汚れた水」に属している。 ※ 水質調査法による水質階級は、Iきれいな水、II少し汚れた水、III汚い水、IV大変汚い水の4階級に分類。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	・省エネなど地球環境への負荷を軽減する行動を行った市民の割合は、令和元年度の目標値80.0%に対し65.1%と14.9ポイント目標値を下回った。 ・不法投棄件数は、令和元年度目標50件に対し47件で、目標値を上回った。 ・桜川の水質(BOD)は、令和元年度目標1.1mg/ℓに対し1.0mg/ℓで0.1mg/ℓ低く、目標値を上回った。(桜川は環境基準Aに該当し、BODは2.0mg/ℓ以下である) ・「省エネなどの地球環境への負荷を軽減する行動を行った市民の割合」は、目標値からも14.9ポイント下回っているが、他の2項目については目標値を上回っていることから、「一部の成果指標で目標値を上回った」と評価した。		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
令和元年度は、「環境美化運動事業」、「霞ヶ浦・北浦地域清掃大作戦事業」、「エコグッズ配布事業」、「自立・分散型エネルギー設備導入促進事業」、「霞ヶ浦問題協議会参画事業」の貢献度が大きかった。 環境美化運動事業においては、毎年7,000人以上の市民が参加、清掃活動を実施しゴミの回収をした。 霞ヶ浦・北浦地域清掃大作戦事業は、3月1日曜日を基準に霞ヶ浦流域市町村の市民が参加し、清掃活動を実施しゴミの回収をした。 エコグッズ配布事業については、イベント等を通じて積極的に啓発を行った。 自立・分散型エネルギー設備導入促進事業においては、7件の補助金を交付した。 霞ヶ浦問題協議会参画事業においては、水質浄化啓発活動、桜川探検隊など事業を参画し実施した。	地域の清掃としてごみの一斉回収事業を継続的にやっていく必要がある。 ごみの散乱や不法投棄が問題視されているなか、市をあげての環境美化活動や意識啓発、ごみ減量化の重要性を理解しごみの分別を心がけ実践する必要がある。 不法投棄及び水質の監視強化に努めるとともに、地域住民や関係機関と連携して不法投棄の防止に努め、マナーアップの意識啓発を図る。 環境問題の意識向上のため学校や家庭での環境教育を充実し、環境意識の向上を図っていくことが必要である。